

豊かさ実現の6次産業化を企業のCSR活動と協働する

株式会社ノバレーゼ

●普及指導員派遣研修の狙い

(株)ノバレーゼの「未来の食プロジェクト」活動

株式会社ノバレーゼでは、2008年5月より開始した植林による環境保護としてのCSR活動「未来の森プロジェクト」を皮切りに、婚礼ビジネス・レストランビジネスにおいて大切なお客様の未来をともに考えるCSR活動として「未来の子供プロジェクト」と「未来の食プロジェクト」を2009年よりスタートしました。なかでも「未来の食プロジェクト」は、社員自身がそれぞれの立場で「感じて」「考えて」「体を動かして」「伝える」という実際に自分が行動することに重点をおいたCSR活動の取り組みスタイルをとっています。(株)ノバレーゼのCSR活動は、企業の人材育成により、自社内だけではなく関係企業や働く人が関わる全ての地域社会や組織において「動いて伝えること」を実践できる人材を育て、それぞれが人として社会的責任を果たすことにより、結果企業が社会的責任を果たすことができるようになることに重きをおいて活動を継続しています。

研修の狙い ～(株)ノバレーゼの想い～

今回の研修では、CSR活動を担当する(株)ノバレーゼの広報・宣伝ディビジョンに研修受入先としてご協力いただきました。研修の受け入れにあたり、プログラム構成及びワークショップの具体的な内容検討など研修に参加する普及指導員が「実際の行動・実践に移してもらうための研修」として必要な気づきや動機づけをして、具体的に実践する手法を座学が中心の3日間という限られた時間でどう身につけてもらうかをノバレーゼ担当者とお食農連携コーディネーターで議論を重ねました。

CSR活動の基本を人材育成と考えるノバレーゼ担当者は、「この研修では、参加している普及指導員および農家もしくは、地域の人々が①夢や志、誇りのある仕事をする、②人と地域が成長し続けること、③地域のコミュニケーションを活性化することが基本にあり、その「気持ち」を大切に、具現化するための「地域の意識醸成」「地域における役割分担」「地域の人々のモチベーションコントロール」などを導く方法を具体的に身につけて欲しい」と考えました。

本研修では、「教える、学ぶ」の関係ではなくノ

バレーゼの活動事例の紹介を通じて、それぞれが「考え」、「意見」し「具体的な農業者や地域の施策をサポートする立場」で第一次産業にかかわるファシリテーションの手法を理解し、「ノウハウ」ではなく「考える力」「工夫する力」「創造する力」を導きだすことをリアルに体感するためのワークショップを中心にした内容としました。

●実施準備・検討過程

今回のノバレーゼ研修参加者は、普及指導員2名(千葉県、福井県)と地域のコーディネーター3名の計5名でした。またオブザーバーとして静岡県の一社一村運動として梅ヶ島地域に入って地域活性化の活動をしている静岡大学農学部の学生と青森でノバレーゼのCSR活動の受入先となっている白神アグリサービス様にも参加いただきました。

当初の研修の狙いとしては、ノバレーゼの本来業務である婚礼ビジネス・レストランビジネスの概要を理解いただいた上で、婚礼及びレストラン業態における商品のニーズを知り、そのニーズに見合った商品提案や流通形態に応じた提案をするための基礎を学んでもらうことを目的とし準備・計画をしておりました。しかし、準備段階でノバレーゼ担当者との議論を重ねるうちにノバレーゼが実際に各地でCSR活動として展開している地域の商品造成のサポート法やブランディングの手法を普及指導員や地域コーディネーターに身につけてもらうことが地域で具体的に実践いただけるのではないかと考え、研修内容を練り直しました。

今後の6次産業化の展開として、第1次産業だけが努力・工夫するだけでなく、第1次産業以外の業種、業態がそれぞれの得意分野を活かし、連携することで今まで提供できていなかった付加価値の高い商品やサービスについては地域の魅力をお客様に提供することに企業が関わりやすい環境を普及指導員や地域コーディネーターが作り出して欲しいと考えました。今後、ノバレーゼのようなスタイルで企業がCSR活動として第1次産業との連携を強くし、企業として6次産業化の一端を積極的に担い、地域の活性化に関われるような社会環境が作られ、さまざまな企業のCSR事例が増えるような展開を推進してもらうための構成としました。

ノバレーゼ研修のプログラム 実施期間:平成23年11月14日～11月16日

【事前課題】 関わる地域や農家にとっての「豊かさとは何か」また「豊かさのキーワード」などを事前にヒアリング・情報収集を行い、地域や農家をサポートする立場として、皆さんが「豊かさ」をどうとらえるかをまとめて研修に参加してください。	第1日〔11/14(月)〕 10:30～18:00	第2日〔11/15(火)〕 10:00～18:00	第3日〔11/16(水)〕 10:00～18:00
	10:30 集合 (株)ノバレーゼ本社 東京都中央区銀座1-8-14 銀座YOMIKOビル 4F 10:35 (1)オリエンテーション (2)事業の概略 11:00 研修開始(講義) (3)ワークショップ1「私の履歴書」	10:00 研修開始 (1)ワークショップ 3 チームビルディング 「地域や農家にとっての成長とは？」 (2)ワークショップ3 まとめ ノバレーゼスタイル事例共有	10:00 研修開始 (1)ワークショップ 5 ブランディング 「伝えるから、伝わるへ」
	14:00 (1)ノバレーゼの事業・ビジネスフローについて (2)ノバレーゼスタイルの地域の活性化	14:00 (1)ノバレーゼオリジナル婚礼ギフトカタログ「タイムレス」の概要 婚礼商材の商品選出から販売まで	13:00 銀座のブランドショップ視察 15:00 (2)ワークショップ5のまとめ ノバレーゼスタイル事例共有 (3)ワークショップ6 企業にCSR活動を提案する
	16:00 (1)ワークショップ 2 「6次産業化とは」 (2)ワークショップ2のまとめ ノバレーゼスタイル事例共有 18:00 終了	15:00 (1)事例の共有 (2)ワークショップ 4 ビジョンメイキング 「地域や農家にとって意義あるファッションとは」 (3)ワークショップ4のまとめ 18:00 終了	17:00 (1)研修の振り返りと コミットメント 18:00 終了

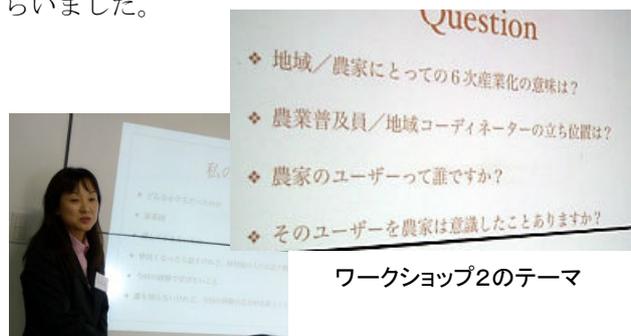
●研修の実施状況

基本的に座学中心となるため、ワークショップのテーマをよりリアルで具体的な内容を掲げて取り組むことにしました。またオブザーバーにもワークショップに参加いただき、現場の現状や農家側の声も聞けるようにしました。各ワークショップごとにノバレーゼが実際に静岡の農家とのCSR活動で経験した事例を中心にその過程のでき事や効果、結果などを紹介しながらできるだけ、現実の現場に即した理解をしてもらえるように工夫しました。

ワークショップ(1)の「私の履歴書」では、各自の履歴や研修にのぞむ意欲などを文章化し、発表してもらいました。プロジェクトに関わるメンバーを理解することの重要性や相手を知ることでの心の距離感を縮め、課題を共有する意識を高めることができることと本人の研修への参加意欲も高めてもらいました。

ワークショップ(2)では、事前課題としてヒアリングした農家・地域にとっての豊かさについて発表し、その豊かさという言葉の意味を普及指導員が考える6次産業化とどう違うかをディスカッションしてもらいました。

農家や地域の課題や希望・想いを「共有する」ことの大切さを認識してもらい、6次産業化の意味や希望・想いを共有することで成長しつづける農家や地域の組織基盤づくりの大切さを理解してもらいました。目的を明確化することでプロジェクトの期間的・段階的な着地点が明確になり、活動を継続していくことができるようになります。ここでは、ノバレーゼのCSR受け入れ先農家で実際に1年間で3回実施した農家と企業のワークショップの具体的な事例を紹介し、議論してもらいました。このワークショップでは、農家や地域が自分たちの課題としてものごとを考えたり、進めたりするようになって自分たちの活動基盤を作っていく過程を理解してもらいました。



ワークショップ2のテーマ

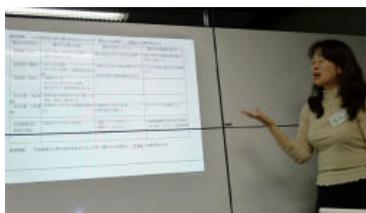
ワークショップ1 発表する普及指導員

ワークショップ（3）では、設定した目的を実現するためにおきる課題を地域や組織・チームとしてどう解決するかということを通り出す手法として「チームビルディング」を体験してもらいました。

実際に普及指導員や地域コーディネーターが実感している地域・コミュニティにおける課題を抽出し明確化、言語化することの重要性をワークショップにて理解してもらいました。同じ方法を使ってノバレーゼが実際にCSR活動のなかでどのように地域の課題抽出を行ったかも事例として紹介しました。

ワークショップ（4）では、農家・地域にとって意義のあるファシリテーションの実践として（3）のワークショップで明確になった課題に対して研修者を仮想のチームメンバーとして設定し、その課題に対して当事者意識を持って主体的に解決につとめるようになっていく気持ちの変化の過程を体験することで当事者意識を醸成させるファシリテーションの方法を学んでもらいました。

普及指導員や地域コーディネーターは、課題に対して答えを出す役割ではなく、その課題解決のプロセスにおいて農家・地域が主体的なものごとに取り組む覚悟を決めるために必要なコミュニケーションのとり方をファシリテーションすることが大切だということを感じてもらいました。CSR活動のなかでノバレーゼが地域で果たしたファシリテーションの事例を通じて重要性を理解してもらいました。



事前課題を発表する普及指導員



ワークショップ4 ヴィジョンメイキング



ワークショップ3 チームビルディング



ノバレーゼの事業概要のレクチャー
取締役販売戦略室長 竹本さん

オリジナル婚礼ギフトの選定についてデザイナー宇野さんからのレクチャー



ワークショップ（5）の「伝える」から「伝える」では、銀座のブランドショップ訪問でブランドの「伝える体験」をしてもらいました。地域や地域製品のブランド化の重要性がしきりに言われますが、実際にブランドといわれる商品がどのように作られ、また商品づくりだけではないブランド構築のための要素・ブランドが伝わるということの重要性をまず、知識として知ってもらった上で、実際にブランドショップを訪問してもらい、お客様として「伝える」ことの大切さや意味を体感してもらいました。

ブランド構築がメーカーからの一方的な視覚的表現や文章的なメッセージを伝えれば、ブランド価値を伝えたことになるのかということからひととき、そのブランド価値を誰がどうやって伝えることで本当に伝えたい人に伝わるのかということを感じてもらいました。「伝える」ことの重要さは、実際に研修者がブランドショップへ出かけて、接客を受けるという体験で本来のブランドが伝わるという意味を理解してもらえたと思います。また、実際にノバレーゼがCSR活動の取組みとして農家と作った商品を販売する直売所をどう改善したらいいかという提案をしたワークショップの過程を紹介し「伝える」ことのポイントを理解してもらいました。

ワークショップ（6）の企業にCSR活動を提案するでは、自分たちが地域に戻って実際に企業へCSR活動の誘致営業に行くとしたら、どんな内容で提案をするかということを考えてもらい発表してもらいました。ここでは、具体的な企業名が出たり、より実現可能な内容が提案され、各地に研修者が戻ってからの活動展開が楽しみになるような内容になりました。



ノバレーゼのガラス張り会議室にて課題に取り組む
普及指導員と地域コーディネーター

●研修の結果(アウトプットとアウトカム)

今回の研修では、事前課題として「農家もしくは、地域の豊かさとは何か」ということを関わる現場でヒアリング調査をしていただき、研修に参加いただきました。これは、農家や地域の6次産業化を何のために行うのかということとその推進役である普及指導員や地域コーディネーターと地域の皆さんが共通の言葉で共有した上で進めようとしているのかということをあえて確認していただくために実施した課題です。商品開発やマーケティングなどの手法論は、様々な研修で身につけていても、6次産業化が農家や地域の何の課題を解決するために必要なのかということを実際に活動する人と推進役が共有していなければ、事業展開の段階的な着地点が途中でわからなくなってしまいます。つつい取り掛かりやすい製品・商品づくりだけに没頭してしまい、お客様そのものを見失ったり、お客様に喜んでいただけるものづくりやサービスの提供がなおざりになっている現実が多いのではないのでしょうか。

本研修では、実際に地域でプロジェクトを進めるうちに起きうる課題に企業が関わって一緒に解決の糸口を探し、具体的にどう解決したかという過程を紹介しその進め方についての意見や質問をその都度、確認しながら進めました。おそらくノバレーゼが2年間のCSR活動で農家や地域との関わりの中で経験した事例とその解決の手法やプロセスは、どの地域でも起きているでき事のように思います。3日間の研修中に出た質問には、現場の現実的な課題も多く見受けられました。

普及指導員や地域コーディネーターが自分の地域

の課題を特殊なことだと受け止めず、どこでも起こりうることであり、どの地域もそれぞれ工夫しながら、解決しているということを農家や地域の皆さんと様々な情報を共有しながら、また企業等の協力を得ながら、活動を推進していくことが普及指導員やコーディネーターとして大切な役割となるのではないのでしょうか。この3日間の研修では、参加された方に、農家や地域の皆さんの話をきちんと聞き、それを整理して、6次産業化に関わるプロジェクトメンバーがどんな課題も当事者として受け止め、自分たちの課題として解決をする方法を導くための手法は、身につけていただけたと思っています。しかし、実際に取り組みが進めば、また新しい課題が出てきます。そのときに本研修で出会った人同士が情報や悩みを共有しながら、次の一步を踏み出していただけることを期待しております。

オブザーバーとして参加
の白神アグリサービス
木村さん



オブザーバーとして参加
の静岡大学農学部4年生
の丸山さん



ノバレーゼの研修担当野原さんによる
ブランディングのレクチャー

文：民間企業等民間派遣研修 [株式会社ノバレーゼ担当]
こめみしょうゆアカデミー
フード&ホスピタリティコーディネーター 堀田 正子
(食農連携コーディネーターFACO)